

小学生の災害意識向上

チーム名:MP-7

氏名:中村 俊之 中村 祐介 高野 光太郎 菱田 康 村上 祐清 畠沢 諒平

所属:金沢工業大学 建築学部 建築学科 二回生

アブストラクト

東日本大震災では10歳以下の被害状況は少ないが、これは学校や親からの避難の指示がされ、それに従っていることから大人の被害よりも少なくなっていると考えられる。そこで、直面し得る自然災害の軽減化や将来的な防災力の向上には、未来を築いていく小学生の防災意識の向上は必要であると言える。自然災害は、発生時の大きな被害から二次災害、三次災害に進展し被害は拡大する。沈静化した後は数年から数十年をかけて復興へ向かう。このような災害に関する一連の状況を知識として身に付けることは、防災意識を深め、後々の防災力の向上へ繋がると考える。防災意識を高めるには防災教室を開き様々な活動を行うことで高めることが有効である。小学生を対象にしているので楽しく学ぶことが出来、興味を持ってもらえるような内容として自然災害による一連の状況を楽しく学べる防災すごろくを提案した。

I.目的:

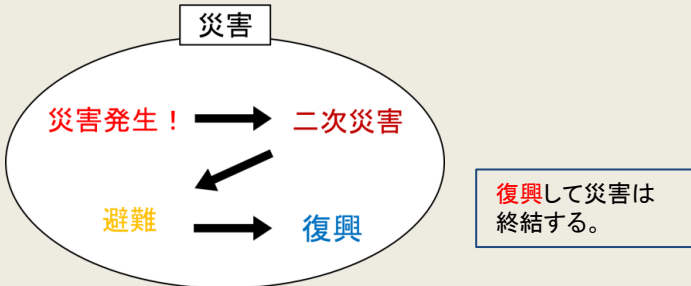


図1 災害に関する時系列的行動

II.現状の調査:



NPO法人プラス・アーツが開発した防災すごろく。ゲーム性は高く楽しんでもらえるが時間がかかりルールも複雑。災害の実状を反しきれていない。

<http://www.plus-arts.net/?p=389>

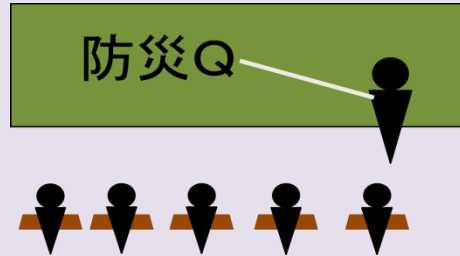


図2 防災教室の授業風景と防災すごろく

III.アイデア:

- サイコロを使わない単純化したすごろく
- ゲーム感覚で防災のことを学べる
- 防災レベルを測る
- 行動を絵で表現(視覚化)
- クイズはくじ引きでランダムに出題

図3 創出した防災すごろく

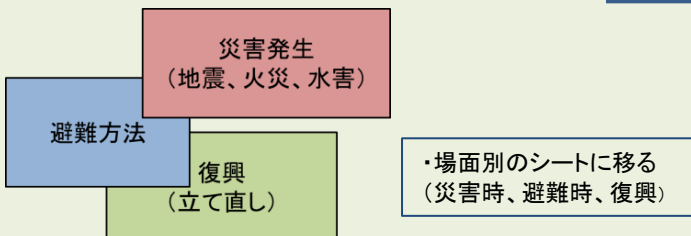


図4 場面別シートの説明

IV.実行案:

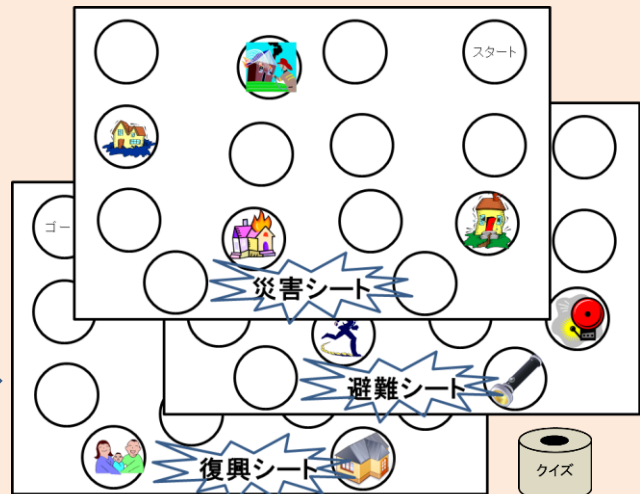


図5 防災すごろくシート実行案

- 災害時、避難時などにシートを分けることで、災害の一連の流れを知ることができる。
- 問題の正解数で防災レベルを測れるようにする。